

旭川市市民参加推進会議（令和6年度第5回）会議録

日 時 令和6年12月9日（月） 午後6時30分～午後8時30分

場 所 旭川市総合庁舎7階大会議室A

出席者 委員7人

椎名委員，杉山委員，田古嶋委員，谷委員，中込委員，長谷川委員，福屋委員
（50音順）

事務局4人

片岡部長，松山課長，青木補佐，朝日主査

傍聴者 なし

資 料

資料19-4	「課題解決検討シート（市民参加の周知）」（第4回会議まとめ）
資料20	「第11期1年目のまとめ」
資料20-2	「旭川市デザインシステムについて」
資料20-3	「第12期 市民参加推進会議公募チラシ(案)」
資料21	「令和7年度 市民参加推進会議の取組予定」

I 開会

委員の7人が出席したため，条例第19条の規定のより会議の成立を報告した。

II 議事

1 市民参加の周知について（第4回会議の報告）

<副会長>

「市民参加の周知について」，事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料19-4を説明

<副会長>

前回会議の内容について報告があったが，以上でよろしいか。

（一同同意）

2 第11期 1年目のまとめ

<副会長>

議事2「第11期1年目のまとめ」，事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料20を説明

<副会長>

今の内容に対しての意見や、1年間この会議に参加してきた感想など一人ずつお願いします。

<委員>

公募委員の募集資格に性別が入っている。性別の記入は今後なくなる傾向だと思っている。ただ、市としては女性の参加者を増やすという目的があるため、難しいのかなとも思った。

また、公募委員を応募する際の最初のハードルは、応募動機を書くことだと思う。機関によっては1000字以上など大変なところもあるため、この文字数を少なくすると応募しやすい。

確かに周知は大事だが、私はやはり中身だと思う。ある会議では、当初2時間ぐらいの予定が、全く意見が出ないため30分ぐらいで終わる場合もある。議事を進める上で、全員に発言の機会を設ける進行をすると公募委員になった人も「参加してよかった」と思うのではないか。

また、反論もあると思うが、委員の報酬は交通費ぐらいで十分だと考える。90ぐらいの審議会委員のために結構な予算をとっている。その予算を別に当てて有効に使ってもらった方がいいのではないかと正直思う。

<委員>

私は、2つの附属機関で公募委員を経験している。全くカラーは違うが、どちらも熱意のある委員と事務局で構成された素晴らしい会議だった。場所やテーマが変わればこんなにも意見が変わるという学びが大きかった。特にこの会議は、事務局も会長も全員女性であり、話しやすい雰囲気作りなどで、女性の色がとても出ている会議だと思った。これだけたくさんの意見が出て、形として反映してもらえたというのは、市民の声が届いているという大きな実感を得ることができるし、委員としてもやりがいを感じる時間になった。来年もとても楽しみにしている。

1点気になったのは、公募委員と有識者の委員で構成されている会議がほとんどだと思うが、その有識者の選定の仕方が風通しの良い環境であるのかどうか。公募委員がこれだけ高いモチベーションで話をしているのに、有識者が参加させられている感覚であると、会議が盛り上がらないのかなと思った。

<事務局>

今の内容に対して、回答する。

委員の選任枠として公募の他に、学識経験者と団体推薦を置いている会議がほとんどである。学識経験者は、大学教授など学識を有している人であるため、多くはない状況である。そのため、事務局で選定して、承諾してくれた方に依頼する。団体推薦は、団体から推薦をもらい委員就任を依頼する方法である。

委員の任期は、最長通算6年としている。女性の積極的な登用を目的に前回見直しをし、女性に限り上限12年の長期在任を可能にした。公募委員も通算6年が上限であるが、「同じ会議に継続して就任はできない」という規則を設けている。

委員は、まず前提として上限6年が一定の決まり。ただ、学識経験者は少ないため、上限を超えても特例として就任依頼をする場合がある。

<委員>

公募委員を2年就任した後であっても、次の期の公募委員が定員に満たない場合は継続して就任できたと思うがどうか。

<事務局>

そのとおりである。定員割れのときには選考の対象になる。公募という特性上、市民に広く参加してもらうという目的が大前提にあるため、なるべく経験したことのない人を選任するという選定基準になっている。

<委員>

団体に所属していると、会議に出ることが望ましいとなれば、出なければならない。これまで色々な会議に出席しているが、和気あいあいとたくさん話が飛び交う感覚は、この会議で初めて経験した。会議に出て、色々な人に出会えて、また市の職員とつながることができ、自分の財産であると思っている。

この公募チラシは、字が大きくとても見やすい。どんなものでも字ばかりだと、下まで目がいかないが、このチラシであれば読む気になる。イラストが目の休まる場所となるため、見やすさがかなり違うと思う。

<委員>

旭川は、家具や市役所の旧庁舎も含めてデザインに力を入れていたのだと改めて思う。デザインシステムに力を入れることで、都市としての魅力を発信でき、子どもたちにもそういう感覚を持ってもらうことは素晴らしいと感じる。

公募委員の応募方法をイラストで見られるというのは、とてもいい。毎日字を見ているが、何か調べるだけでもとても疲れる。人は、たくさんの情報のなかから重要なところだけを拾い、そこから深めていくというような進め方がいいと思う。その点では、公募委員の募集は、このチラシのように目に映った刺激をきっかけとすることが大事だと思った。

話題に出た委員のモチベーションであるが、団体推薦の委員は出席しなければならない重荷を抱えて出席している人もいる。参加したい意欲のある公募委員との温度差は、どうしても発生してしまう難しい面はあると思う。

ただ、気持ちのある公募委員が、会議を刺激し、そこで活発な会議を進めてくれることはとても楽しかった。私は、団体推薦が参加のきっかけではあったが、このメンバーとの関わりもとても良く、毎回気持ちよく参加できた。

<委員>

この1年の進みを振り返ることのできる、分かりやすい資料だと思う。

公募チラシは、前回と全く違う読みやすさと、イラストが入ることで見やすくなっている。前回委員の感想欄は、会議風景の写真を入れて、吹き出しにしてもいいのではないか。ビジュアルが一番影響力が大きいと思う。

この会議は、グループに分かれて話すなど委員が楽しめるように考えてくれている。これを他の会議の方にも楽しいよと発信していきたい。

<委員>

この会議は、一番雰囲気良く、話が活発だと思う。それは、参加している皆の人柄や発言内容、また事務局がどこをゴールにして、どういう問いをするかを前向きに考えているからこそできると感じている。

色々なテーマがあるため、すべての会議でフランクな話ができるわけではないが、この会議のように発言しやすい雰囲気や、ゴールがどこかが示されていると委員としては参加しやすいし、発言しやすい。

参加することのハードルを下げるために、口コミでどんどん伝えていきたいと思った。よく目にするものでも、詳しい人が直接教えてくれることによって、腑に落ちる場面が多くある。直接伝えるというそのワンクッションが後押しにつながるため、何か後押しをできる人になればいいなと思った。

<副会長>

私はNPO法人に務めており、ひとり親家庭を支援している。そのなかのアンケートで、水道料金の減免廃止の話がよくあがっていた。

調べていくと、水道料金について市民が参加できる会議があることを知り、議事録によって検討されている内容や経過が分かった。

そこに参加した公募委員が何かを言ったからといって変わるわけではないと思う。ただ、意見が議事録に残る、それを市が公表するため、透明性がある。それが、市民が参加できて意見を言える会議なんだと思う。

だから、この市民参加推進会議は、「いろんな層の人が、いろんな場所に参加して、発言することを後押しするととても大事な会議だ」と感じた。

皆からの一つ一つの意見というのは、そういう人たちを助けたり、もしかしたら寄り添える発言をしているのかもしれないと思った。この場で皆からもらう意見というのは本当に大事であると、この1年を通して学んだ。

3 第11期 2年目の取組予定

<副会長>

「第11期2年目の取組予定」、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料21を説明

<副会長>

この内容について、意見もしくは今後審議したい内容を一人ずつ聞きたい。

<委員>

今年の託児利用について、実績を整理しているのか。

<事務局>

利用実績が1人のため、そこまではしていない。ただ、それを実績として、この制度がどうなのかは検証していいと考えている。利用者のアンケートをとるほどの母数はないが、利用者意見の聞き取りはできる。

実績が上がらないことをどう考えるか。制度を利用しづらいのか、利用したいと思っている人が委員として入り込めていないのか、そのような可能性も含めて話していくことも方法として考えている。

<委員>

今の公募委員の状況と、この1年の新しい取組後の公募委員の状況を比べてみたい。結果を見てみたいと思う。

<委員>

各会議で意見書を提出して、それが結果として反映されていることが分かれば、委員は参加していることに対してやりがいを感じると思う。

<委員>

託児を1度利用したが、子どもが託児先の方と仲良くなって、毎回預けてほしいと頼まれるくらいだった。このシステム自体はとても良かったと思う。託児先にも聞いてみたが、やり取りもスムーズだったということで、仕組みがしっかりしていた印象である。

利用の対象者となる小学生までの子を持つ人がどれくらい会議に参加しているのかというデータは欲しい。

公募チラシはとても素敵だと思うが、ぜひ応募方法に電子フォームを取り入れてほしい。

来年もまた忌憚のない発言が飛び交うことを楽しみに思う。

<委員>

1人の有識者に集中することのないように、幅広い経歴を持った方々も有識者として入り、様々な意見を取り入れる方法で進めていくことが大事になってくる。

グループワークはとてもいいが、グループごとでの発表で終わるのではなく、発表後にそこから発展させていく時間があってもいい。

この会議は、皆が公平に積極的に話し合っている。今後も全員が参加できるような形を取り入れていくことを期待している。

<委員>

来年度、1年目で出た意見やアイデアを効果検証していけたらいい。

<委員>

各委員会や懇談会の空気を知るツアーのように、それぞれの会議を少しずつ見られたらいいと思った。道のりは厳しいと思うが、星いくつなどで客観的に数値化できると、これから委員になる人にとっては、分かりやすくなるのではないか。

<委員>

託児利用の効果検証ということであるが、この根底にある目的は、参加者層の確保だと思う。母親であっても参加できるように、旭川市では託児という制度を準備している事実があることが大事。

模擬審議会の開催はとてもいい。もし実施できれば、周知につながるし、今までのSNSを見ている若者が体感したときに、どのような感想を持ったかを直接聞くことができる。私達も協力して、「参加してもいいんだよ」と口コミもできる。また若い人の意見を聞くと、ハッとすることがたくさんあって刺激になる。

「子育て世代の女性や若い方の意見を取り入れている旭川」というように周知ができると、市民参加が活性化しているイメージアップにつながって、どんどんブランド化していけると思う。

<副会長>

たくさんの意見に感謝する。今年度の審議は終了とする。